

トマトキバガとは

【分布】

アジア（インド、台湾、中国、ネパール、パキスタン等）、中南米（アルゼンチン、コスタリカ等）、欧州（イタリア、スペイン等）、アフリカ（アルジェリア、エチオピア等）。

【寄主植物】

トマト、シマホオズキの茎葉及び果実に加え、バレイショ、ナス等のナス属、チョウセンアサガオ属の一部、タバコ属等のナス科植物の茎葉。

【形態・生態】

成虫及び幼虫の外観は下図のとおりで、成虫は開張約10mm。夜行性で、昼間は主に地上に近い葉の間に隠れる。雌成虫は寄主植物の葉上など地上部に卵を産み付ける。幼虫は老熟すると体長約8mmに達し、土中、葉上、葉の食害痕中で蛹化する。地域によって差があるが、年に10～12世代を繰り返す発生地域もある。

【被害】

主に幼虫が茎葉に食入するが、トマト、シマホオズキでは茎葉に加え果実に食入する報告がある。

【防除対策】

登録農薬の散布、被害植物残渣の適切な処理等



図1 成虫（標本）



図2 成虫



図3 幼虫